

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 39
2020・1・26

1 ドイツで野鳥に「鳥インフルエンザ」発生を確認

(2020・1・20)

連邦農業大臣クレックナーは、ブランデンブルグ州において鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、家禽飼育者に生物安全対策の強化を呼びかけた。ブランデンブルグ州の管轄当局は、今日（1月20日）高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生事例を報告してきた。この鳥の死骸はスプレーナイセ郡（Landkreis Spree-Neisse）で発見された。

フリードリッヒ ローエフラー研究所（連邦動物健康研究所）は、この間に HPAI 一発生を正式に確認した。この鳥インフルエンザは、既に数週間前に中部一東部ヨーロッパで発生していた。過去において特にハンガリー、ルーマニア、チェコそしてポーランドでの発生が報告されていた。ドイツにおいて個々の家禽には、現在発生事例がない。

ブランデンブルグ州当局は既に反応し、そして水鳥について重点的に「野鳥モニタリング」を強化している。そして家禽飼育者に、生物安全対策の継続的な遵守を呼びかけている。この動物感染症の家禽への伝染を回避することが、今最も重要である。そのため、ドイツ連邦農業省（BMEL）は家禽飼育者（私的な飼育者）にも生物の安全対策を、自らの経営内で強化するよう要請している。

これは特に野鳥への接触を通じた家禽へのウイルスの感染を、阻止することが含まれている。防護対策のための情報は、BMEL のリンク情報で入手できる。

鳥インフルエンザは、ヨーロッパで常に繰り返し寒いシーズンに発生している。過去年における体験は示している。つまり、国際的な取組みで野鳥の動物感染症発生の影響を、無くしている。

鳥インフルエンザの背景情報

鳥インフルエンザは、ウイルスを通じて引き起こされる感染症である。高度な感染形態（高病原性）と低度の感染形態（低病原性）との間で、違いが生じている。”古典的な鳥インフルエンザ”として鳥への重度な進行形態は、家禽と野鳥のインフルエンザを示している。これは高度な病原性インフルエンザウイルス、H5 と H7 によって引き起こされる。

これは 19 世紀末以来、獣医において知られた感染症である。これは特に産卵鶏、七面鳥、しかし、カモ、ガチョウのような水鳥にも発生する。この鳥インフルエンザは、一般社会において言われるような、家禽飼育の中にこのウイルスが持ち込まれたとき、高度な被害を引き起こす。他の亜タイプでの感染は、大抵深刻な症状無しの影響にとどまる。水鳥は特に低い感染力を持ったインフルエンザウイルスの、自然的な「蓄え場」となっている。そのように低い病原のインフルエンザウイルスは、勿論例えば、七面鳥のような経済的家禽について高い病原形態に変化し、それから鶏ペストの臨床症状を呈する。

2 ドイツーポーランド農業大臣会議：アフリカ豚コレラ予防対策の強化

—両国国境に猪の移動を制限する柵の設置— (2020・1・21)

連邦農業省は、アフリカ豚コレラ（ASP）発生の際の豚コレラ規則を拡大する。ベルリンでの「国際緑の週間」に際して、クレックナー大臣はポーランドの同僚大臣 Jan Krzysztof Ardannowski と会談した。2019 年秋に西ポーランドでの ASP 発生以来、ドイツ国境近くでも発生が報告されている。この会談の重点テーマは、ASP への対応である。両国の良好な共同活動は、既に長い間定着している。

両大臣は 4 つの事項について合意した。さらにポーランドサイドでの動物感染症を防止すること、並びにドイツへ越えてくることの阻止である。

- (1) これまでの努力強化のための共同対策カタログの策定—会談において特に感染している猪のドイツへの移動を阻止するために、国境に沿った柵を巡らす回廊の設置。
- (2) ポーランド側での防護柵の設置に際して、ドイツの技術的な支援団体の支援のための現地訪問。
- (3) このウイルスに係る知見と研究の領域における共同活動の強化
- (4) 効率的な予防対策としての射殺等による猪の密度の思い切った削減を強

調した共同声明の策定

連邦省は「豚コレラ規則」を拡大する。ドイツにおいて現実的に危急の場合の準備のためにも、さらなる対策を講ずるためである。連邦省は「豚コレラ規則」の拡大によって、発生した場合に各州の管轄当局に、可動性の柵また他の野生動物止めの仕切りの設置を可能とさせる。同時に猪の移動行動を、効果的に制限することができる。他のヨーロッパ各国から示された体験、この方法での科学的知見も活用する。

規則改正は、間もなく連邦議会で議決される。これまで管轄当局は、いわゆる核となる地域にのみ、そのような柵を設置できた。今後は危険地域と緩衝ゾーンを、遮断することが可能となる。この両地域は現地の状況に応じて、管轄当局が ASP - 死骸の発見された周辺を調整する。危険地域の中で ASP-発生の無いことが証明された地域を、緩衝地帯と呼称する。しかし、それでも緩衝地帯に、防護対策の指示は可能である。

3 バイオエネルギー村コンクール：3自治体を表彰（2020・1・21）

ー各分野の効果的な組み合わせと柔軟な電気生産ー

生きてる革新：太陽光と風そしてバイオマスを組み合わせてエネルギーを生産。

バイオエネルギー自治体と村々は、エネルギー転換のパイオニアである。連邦コンクール 2019 バイオエネルギー自治体の表彰者が、これを改めて証明した。

ニーダーザクセン州のアッシュェ村（Asche 人口 300 人強）、バイエルン州のフックスタール村（Fuchstal 人口 1700 人）、ヘッセン州のメングスベルグ村（Mengersberg 人口 840 人）が、日常のかつ進歩的に化石燃料からのエネルギー転換を実践している。特に電気と熱エネルギーを柔軟性のあるバイオ施設と、そしてこれと組み合わせた木材、太陽光そして風力エネルギーとで、電気供給の柔軟性を生み出している。

将来的に電気ー熱余剰は蓄積し、そして暖房に利用されるべきである。全てこのことは、現地で住民と自治体がイニシアチブをとり、そして地域企業と共同で実施している。」連邦農業省政務次官ウーベ ファイラー”我々連邦省はコンクール・バイオエネルギー自治体でもって、既にこれまで5回にわたって、エネルギー転換のパイオニアを表彰している。気象保護と再生可能なエネルギーの活用に向けて、自治体の関与を促進している”と、述べた。

今日（1月21日）ベルリンの国際緑の週間において、受賞者の公式な表彰が行われた。その際、賞金として10 000ユーロ（約120万円）が授与された。

ドイツにおいて約2000のバイオエネルギー村が、今日既に需要の100%以上の電気・熱を、地域のバイオエネルギーとして、太陽光、風力そして再生可能な資源から生産している。しかしながら、地域において不足・過剰といった不規則な生産も生じている。

エネルギー需要に応じて効率的に生産、利用するための、その方法として各分野の組み合わせ、流動性と蓄積が必要となる。この手ごかりは受賞自治体が既に実践しており、今日表彰される。このため、他のバイオエネルギー村は、今日表彰される3村に関心をもって目を向けるだろう。政務次官が説明した：“気象保護とエネルギー転換は、バイオエネルギー無しに、そして地域の住民無しには考えられない。

バイオエネルギーは、依然としてドイツにおいて再生可能なエネルギー供給のために、大きな役割を果たす。

- (1) Fuchstal 村は、新たに「Power-to-heat-Ansatz」、つまり余剰電気を蓄電池に蓄積するのは高価なため、余った電気を熱に転換し住民が使用するまで、大きな中間熱貯蔵機に貯めておく。Fuchstal 村は、この方法での実践が表彰された。これと並んでこの村は、村民のウインドパーク（集合型風力発電所）からの電気直売のような、革新的な計画も評価された。
- (2) Asche 村は、既に変動的なバイオ施設とさらに”熱の誘導”、すなわち熱の需要に応じてバイオ施設を可動させる。大抵、ニーダーザクセン州のバイオエネルギー村のように、電気だけでなく地域の近郊暖房ネットワークにも、熱を供給している。夏は暖房熱に対して需要が少ないので、2つから1つのみのブロック発電施設を運転している。
- (3) Mengersberg 村は、最終的にドイツ全土で最も大きな太陽熱施設を、協同組合体で実現した。夏と冬にも持ち分に応じて、熱エネルギーを準備している。これは蓄熱施設と「キクイムシ」の被害木や風害木を用いた、「ウッドチップ」ボイラーによって補完されている。この木材は、現在乾燥した夏、暴風そして大量の害虫被害によって生じた。バイオエネルギー村は、この原料を再生可能な熱生産のために、意義深く活用してい

る。

4 2020 年度連邦コンクール：「わがむらは将来を」の受賞者を表彰

(2020・1・24)

連邦農業大臣クレックナーは、連邦コンクール「わがむらは将来を」の受賞者を表彰した。このコンクールには、1900 の村々が応募した。約 2500 人のゲストが国際緑の週間の領域において、今日（1 月 24 日）大規模なそしてバライティーに富んだ「むらの祭り」で、第 26 回連邦コンクール「わがむらは将来を」祝った。コンクールは 13 の州から 1900 弱の村々が参加した。その中で 30 のむらが最終ラウンドに進んだ。

そして今日、連邦食料・農業大臣クレックナー出席のもとに、金、銀そして銅賞でもって表彰された。彼女は表彰式の挨拶の中で、独創性に富んだこれらのむらの人々の参画と団結を評価した。”生き生きとした農村地域無しに、我々は全てが古く見える。そして地域住民はしばしば、良いアイデアをもっている。むらでの良好な共同生活に成功するために。特にボランティアは、創造力とモチベーションをこのコンクールで支援している。

全ての受賞者に対して、心からお祝いの言葉を述べたい。一方、連邦コンクールについて、むらの共同社会のための余暇をもたらすという個々の成果だけでなく、全体への波及効果が重要である”と、大臣は続けた。”自分の故郷になお生きる価値を創り出すことが重要であるとき、老いも若きも、古くから住んでる人も、よそからの移住者をも、全て取り込むこと。この大きなむらの催事とともに、この表彰もまた次のコンクールに目を向けさせる。

同じく「むらの子供達」キャンペーン：これはむらの生活について、我々の「愛情の告白」である。”と、政務次官ウーベ フェイラーは、成果認定書を表彰者に伝達した。表彰されたむらは、金賞 15 000 ユーロ（約 180 000 円）、銀賞 10 000 ユーロ（約 120 万円）、銅賞 5 000 ユーロ（約 60 万円）、特別賞 3 000 ユーロ（約 36 万円）を得た。

2020 年度「わがむらは将来を」の表彰

金 賞 8 村 銀 賞 15 村 銅 賞 15 村
さらに今年度から 特別賞 6 村

5 「木材建築プラス」連邦コンクール最初の特別賞に応募を 一例えば再生可能な素材で保育所の建設（2020・1・20）

木材建築プラス—これは建物の建築と改修に際して、自然建築材料の木材プラスの投入が重要である。連邦食料・農業省（BMEL）は、気象に優しくそして持続的な建築文化への貢献として、再生可能な原料での建築成果コンクールでもって評価する。その上、木材—自然建築材料の投入は、持続的なエネルギー—暖房構想との組み合わせを、より強く視野に入れている。

BMEL によって提供される、合計 50 000 ユーロ（約 600 万円）の賞金で表彰される。今からすぐにそして 2020 年 9 月 1 日まで公的、私的そして営業上の建築主が応募できる。審査対象の建築物件は、2015 年 8 月から 2020 年 8 月までの間に、木材そしてさらに再生可能な原料で新築または改修され、完成したものである。特に木材の利用構想、気象保護効果そして用地と資源の責任ある取り扱いもまた、評価において取り上げる。

次のカテゴリーにおける対象物が審査される。

- ・住宅建設—多世代用住宅
- ・住宅建設—家族用住宅
- ・公的そして営業上の建築物
- ・保育園のための新しいカテゴリーの特別賞

特別賞に関して保育園の公的ないし民間の建築主が、評価の対象になる。

それは再生可能な原料での新築と改修だけでなく、栄養—教育上の構想、自由空間の形成と備え付けの設備もまた、考慮される。この表彰状は 2021 年ベルリンで開催される「国際緑の週間」で授与される。この木材プラス 2018 のコンクールにおいて、10 人の優秀者が賞を授与された。これには 137 の参加者が BMEL のプロジェクト担当として、「専門代理店・再生可能原料（FNR）」に、コンクールの応募書類を提出した。

背 景：

BMEL は木材プラスの建築主コンクールでもって、2014 年以来改築、断熱そして構造における自然建築材料の投入、並びに賢明な暖房構想と再生可能なエネルギーを伴った、木材建築の長所と結びついた建造物を表彰している。このコンクールの具体的な実施は、FNR に委託している。

FNR は 1993 年以來、BMEL のプロジェクト担当者として、再生可能な原料奨励プロジェクトに取り組んでいる。さらに、持続的な林業と革新的な木材利用分野における研究テーマを支援している。「専門知識—情報センター森林と木材」は、FNR の組織部門である。

2020・1・25 訳
青森中央学院大学
中川 一徹